

平成 27 年 9 月

医療関係者の皆様

日本メドトロニック株式会社  
ダイアビータス事業部 事業部長  
小松 久人

**X 線撮影、CT スキャン、MRI 検査時における機器取扱いについて**

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素はメドトロニックダイアビータス製品に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

掲題の件、下記弊社インスリンポンプ及び持続グルコースモニタリング装置につきまして、X 線撮影、CT スキャン、MRI 検査時における機器取扱い上の注意をご案内させていただきます。一部製品につきましては誤作動、故障の原因となりますので検査時には取り外していただけますようお願い申し上げます(次ページ参照)。

今後とも弊社ダイアビータス製品をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

**【対象製品】**

販売名:メドトロニック ミニメド 600 シリーズ	医療機器承認番号:22500BZX00369000
販売名:パラダイム リザーバー	医療機器承認番号:21800BZY10166000
販売名:パラダイム インスリンポンプ	医療機器承認番号:21700BZY00314000
販売名:インスリンポンプ 注入セット	医療機器承認番号:225ACBZX00013000
販売名:メドトロニック iPro2	医療機器承認番号:22300BZX00435000

## 【X線撮影、CT スキャン、MRI 検査時の対応】

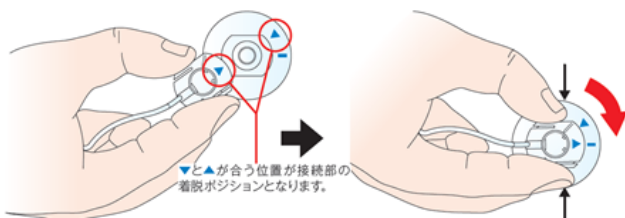
○:外さなくてよい

×:取り外し、検査エリア外に保管

療法		製品写真	装着イメージ	装着しているもの	X線撮影	CTスキャン	MRI
CSII	パラタイム722			注入セット	○	○	○
				ポンプ本体 チューブ(管)	×	×	×
	ミニド620G インスリンポンプのみ			注入セット	○	○	○
				ポンプ本体 チューブ(管)	×	×	×
SAP	ミニド620G インスリンポンプで 持続モニタリング中 (トランスミッタ有)			注入セット	○	○	○
				ポンプ本体 チューブ(管)	×	×	×
				トランスミッタ本体	×	×	×
				Enliteセンサ	○	○	○
CGM	iPro2			レコーダ本体	×	×	×
				Enliteセンサ	○	○	○

## 【ポンプ、トランスミッタ・レコーダ本体の外し方】

### ポンプ本体・注入セットの外し方



\* 緊急の場合はポンプを操作せず取り外して構いません。  
※『センサ信号中断』のアラートが鳴った場合は、センサをオフに設定するとアラートが止まります。

\* 取り外し後は検査エリア外に置いてください。

\* 検査後、再びチューブを付けるときは、『▲』と『▼』を合わせます。

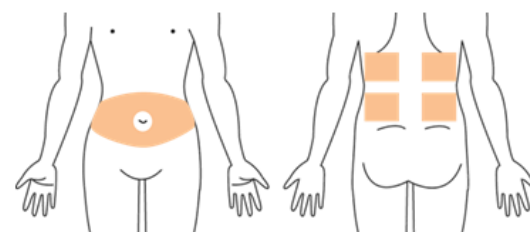
\* 『▼』の位置までしっかり回さないと、**インスリン漏れ(高血糖)**の原因となります。

### CGM機器の外し方

1. 粘着タブをトランスミッタから慎重に外します。
2. センサからトランスミッタを取り外します。



### センサの装着の有無が不明な場合



注入セット及びセンサの装着は の箇所が一般的です。検査箇所が該当する場合は事前にご確認ください。

### CGMセンサ(エンライトセンサ)の外し方

- ①センサの白いテープを剥がしてセンサを取り外すか、センサのふちを持って皮膚から取り外します。
  - ②取り外したセンサは、医療廃棄物容器に入れて廃棄してください。
- ※トランスミッタ本体は捨てないようご注意ください。

安全、快適に使用するために

## インスリンポンプを使うための重要な注意事項

少なくとも1日4回以上血糖自己測定をしてください

**重要!**  
チェック 注入セットの交換2時間後とインスリンポンプの取り外し前後は必ず行ってください。



インスリンが確実に注入されているかを常にチェックしてください

**重要!**  
チェック 接続部やチューブの曲がりや詰まり、インスリン漏れ、インスリン内の気泡をチェックしてください。



他のインスリン注射手段(インスリンペン型注射器等)を必ず携帯してください

**重要!**  
チェック インスリンポンプの故障やカニューレやチューブの詰まり、その他のトラブルに備え、他のインスリン注射手段を必ず携帯してください。



安全、快適に使用するために

31

安全、快適に使用するために

## インスリンポンプを使うための重要な注意事項

インスリンポンプは精密機器です。落下、水没に注意し、高温・多湿を避けてください

**重要!**  
チェック 落下、水没があった場合は、セルフテストを実施してください。(P.33、Q2をご参照ください)



本体をX線、CTスキャン、MRIに通さないでください

**重要!**  
チェック これらの検査を受ける場合は、インスリンポンプをカニューレから外してください。



低血糖、高血糖など体調に異変があった場合、必ず医療機関へ連絡をしてください

**重要!**  
チェック あらかじめ医療機関の連絡先を確認しておきましょう。



安全、快適に使用するために

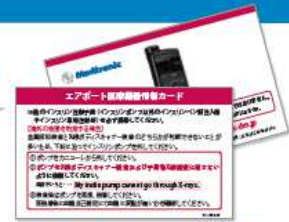
32

# Q&A

## Q1. 飛行機を利用するときはどうすればいいですか？

インスリンポンプをつけて飛行機に搭乗することが出来ます。

- 空港セキュリティでエアポート医療機器情報カードを提示してください。
- 空港セキュリティのX線検査にポンプを通さないでください。  
(金属探知機検査は問題ありません)
- 他のインスリン注射手段を必ず携帯してください。
- 事前に航空会社へ詳細の確認をお願いします。



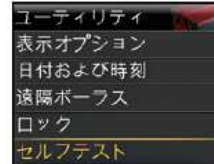
エアポート医療機器情報カード  
Welcome Kitに同梱されています

## Q2. 自分でできる機械の点検機能はないですか？

- 「セルフテスト」という機能があります。

メニュー → ユーティリティ → セルフテスト

不具合があれば、かかりつけの医療機関へご連絡ください。



## Q3. ベルトクリップ以外の携帯方法はあるのですか？

ポケットに入れて携帯したり、ポーチやケースに入れて携帯する方法もあります。

胸元や足に装着するなど、服装や生活スタイルに合わせ、工夫して携帯する方もいらっしゃいます。

安全、快適に使用するために

## 緊急連絡先

### ■ 医療機関連絡先：

このような場合は医療機関へご連絡ください

- 高血糖や低血糖など体調に異変がある場合
- インスリン量の調整など治療に関する相談が必要な場合
- 患者さんやご家族による対処が困難な場合
- 付属品が無くなった場合(ご注文や発送依頼)
- ポンプまたは付属品の故障が疑われる場合

### ■ 24時間サポートラインコールセンター：0120-56-32-56

ポンプの使用方法や、アラート、アラーム対応などでお困りのときはご連絡を！ ※年中無休

## セルフテスト

セルフテストとは、ポンプが正しく動作しているかどうかをチェックするための安全機能です。この自己診断機能を使用することで、ポンプのメンテナンスを行ったり、ポンプの動作に異常がないかチェックしたりすることができます。セルフテストは、一連のテストに加えて、ポンプ動作中に独立して実行されるテストです。



**警告：** ポンプのセルフテスト実行中は、インスリン注入が最長で2分間一時停止します。

セルフテストでは以下のテストが行われます。

テスト	説明
表示	ディスプレイを最長 30 秒間オンにします。
通知ライト	通知ライトを 3 秒間オンにした後オフにします。
パイプ	パイプサイクルを 2 回行います。
音	アラート音、イージーボーラス音(ステップ 1)、アラーム音を発生させます。

ポンプに対して上記の表に記載された一連のテストが実行されます。セルフテスト中は、ポンプから目を離さないようにしてください。

### セルフテストの実行方法

1. セルフテスト画面に移動します。

メニュー > ユーティリティ > セルフテスト

セルフテストが進行中であることを示すメッセージが表示されます。

セルフテストは完了まで2分ほどかかることがあります。その間、ディスプレイが一時的に白くなり、通知ライトが点滅し、ポンプが振動してビープ音が発生します。

2. セルフテストで問題が検知されなかった場合、ディスプレイはユーティリティ画面に戻ります。

セルフテストで問題が検知された場合は、その問題の詳細を示すメッセージが表示されます。セルフテストのエラーメッセージを表示されるか、テスト中にポンプが表示どおりに作動していない場合は、24 時間サポートラインにご連絡ください。